

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
2020年度事業報告書

I 活動報告

2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）は、当協会にとって公益社団法人としての第8期となり、定款・規程・規則に則った協会運営を進めた。

2020年2月に始まった、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、多くの活動が制限を受け、過去に経験したことのない特別なシーズンとなった。全ての世代に於いて春シーズンは練習、試合とも全く行われないう状況になり、秋シーズンにおいても活動開始が遅れ、大会も大幅に縮小されるなど大きく影響を受けた。

講習会、クリニック、フットボール教室等、選手・指導者が集合する行事はほとんどが中止され、開催が予定されていた3つの国際大会、国際強化プログラムも一部の延期を除き中止となった。国際会議については中止となる会議もある中、オンラインで開催された会議もあった。

そのような状況下で、各加盟団体では規模は縮小されたものの、各地域で公式戦を行い、社会人、大学、高校ともそれぞれシーズンを終えることが出来た。またライスボウル日本選手権、フレッジフットボール日本選手権も開催された。

1) 日本スポーツ協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本スポーツ協会（JSPO）からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関するコーチ資格の専門科目講習会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、すべての講習会を中止した。

その中で、2月と3月の4日間、独自開催のコーチ1講習会をオンラインで開催した。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（スポーツ活動推進事業）の助成を得て、「JAJFA フットボールアカデミー」実施を下記の通り計画した。

内容はアメリカの団体 USA FOOTBALL が安全なフットボールの普及を目指して開発したプログラム「ヘッズアップフットボール（HUF）プログラム」を基本とし、頭部傷害を少なくするために、ヘルメットではなく肩で相手に当たることを推奨する最新のタックル技術である「ショルダータックリング」の講義・実技を中心に「正しい防具の装着」から成るプログラムを各学生連盟向けに行うものである。

しかし、今年度に予定されていた「JAJFA フットボールアカデミーキャンプ」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から全て開催を見送り、中止とした。

〔開催を予定していた事業〕

- ・ 2020年5月：フレッシュマンクリニック（関西学生連盟）
- ・ 2020年5月：ヘッズアップアカデミー（東北学生連盟）
- ・ 2020年6月：ヘッズアップアカデミー（北陸学生連盟）
- ・ 2021年3月：ヘッズアップアカデミー（東海学生連盟）

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加、ならびにアメリカンフットボールの普及活動

定款第5条第1項第1号及び第11号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

2007年、川崎市と本法人との間で「アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくり」に関する包括協定を締結し、川崎市主導の「まちづくり推進委員会」に参加してきたが、2015年3月に富士通スタジアム川崎が完成したことから、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、2016年2月、川崎市の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議（議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授）」を発足した。

ただし2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、入場者数制限下において、感染予防策を講じたうえでの試合開催となったため、来場者を増やす活動はほぼすべて取り止めた。一方で、オンラインを活用しての観戦講座等のイベント開催、ならびに試合ライブ配信を活発に推進した。

4) 大規模災害の被災地及び被災者に対する支援に関する事業

定款第5条第1項第1号、第12号に関連する事業としては、2020年度に実施事業はなかった。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第74回ライスボウル」を主催した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念された為、当初観客数1万人を上限に開催を計画したが、開催前の12月23日、政府からの観客上限数5千名へ引き下げの発表があり、それを受けて、新規販売の中止、販売済チケットの希望者への払い戻し対応を行った。

ライスボウルは社会人最多9回目、7年ぶり出場のオービックスーガルズと学生最多、3年連続出場の関西学院大学ファイターズの対戦となった。今年度はコロナ禍の練習不足、体力不足を

考慮し、試合時間を短縮する運営でライスボウルが開催された。

前半は12対14と互角の戦いを見せた関西学院大だが、後半に入ると徐々にオービックの地力が上回りだした。関西学院大も終盤で追い上げを見せるものの、35対18でオービックが勝利、7年ぶり8度目の日本選手権優勝を手にした。

初めて全席指定で行われた今回のライスボウル、人数制限下ではあったものの、楽しみにして下さっていたファンは多く、8,851名の観客を迎えた。(東京都の催物の開催制限等については、政府の方針に則りライスボウル当該日の観客動員数の上限は5千人だが、発表前に既に販売をしていたチケットのキャンセルは求められず、新規販売を自粛・希望者へのチケット払い戻し対応をした結果、この観客数になっている。)

定款第5条第1項第3号に関連する事業として3月20日、「第9回フラッグフットボール日本選手権」を主催した。

シニア(男子16歳以上)では関西地区代表、京都ジュベナイルズが41対28で関東地区代表リバーサイドガンブラーズ市川を下し優勝。レディース(女子16歳以上)は関東地区代表ヒューペリオン東京が関西地区代表アイリスを19対14で破り優勝。それぞれ日本一に輝いた。

6) 高校生連盟・中学生連盟の主催試合に対する後援

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の大会を後援した。

- ・2020年度高等学校日本選手権大会決勝戦、(第51回クリスマスボウル)
2020年12月26日(土) 於 神戸王子スタジアム

他にも以下の大会の後援を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、大会は中止となった。

[後援を予定していた大会]

- ・東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦(第10回ニューイヤーボウル)
2020年1月
- ・第8回日本中学生アメリカンフットボール選手権
2021年1月

7) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、計画当初下記3つの国際試合に日本代表チームを派遣する計画であったが、新型コロナウイルス感染症、感染拡大防止の観点から全ての大会は中止となった。

[派遣を予定していた大会]

- ・第4回世界大学選手権(FISU主催)

日程：2020年6月2日～16日

会場：ハンガリー セーケシュフェーヘルヴァール

・第6回U-19世界選手権（IFAF主催）

日程：2020年7月1日～17日

会場：USA オハイオ州キャントン

・第10回フライングフットボール世界選手権（IFAF主催）

日程：2020年8月17日～24日

会場：デンマーク

8) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI（ともだち作戦）と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した下記「第9回 TOMODACHI BOWL」の後援を予定していた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からこの試合は中止となった。

[後援を予定していた事業]

・第9回 TOMODACHI BOWL

（米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム 対 U-19 関東・東北選抜チーム）

試合日程：2021年3月14日（日）

試合会場：米軍厚木基地 リードメモリアルスタジアム

対 戦：Team USA（米軍基地高校、アメリカンスクール選抜チーム）

Team Rising Sun（U-19 関東・東北選抜チーム）

9) 国際競技力向上に向けた取り組み

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、各世代の有力選手を集め、技術力向上を目指しクリニックを開催する。その中から、それぞれの世代で日本代表候補選手を選出し、国際大会へ向けたチーム作りに取り組む計画をしていた。

計画当初、下記3つの世代で国際競技力向上の取り組みとして選手選抜と強化練習、および遠征を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全ての選抜、練習、および遠征が中止となった。

① インターナショナルボウル2021（18歳以下の世代）

インターナショナルボウル キャンプを開催し、日本代表候補選手を選出する。その代表候補選手がアメリカテキサス州へ遠征し同年代のアメリカ選抜チームと試合を行うというプロ

グラム。

[予定されていたキャンプ]

- ・ 2020年 7月24日 (金) : インターナショナルボウル キャンプ (関東地区)
- ・ 2020年 7月27日 (月) : インターナショナルボウル キャンプ (関西地区)
- ・ 2020年11月28日 (土) : インターナショナルボウル キャンプ (関西地区)
- ・ 2020年11月29日 (日) : インターナショナルボウル キャンプ (関東地区)

[予定されていたアメリカ遠征]

- ・ 2021年1月中旬 : インターナショナルボウル2021アメリカ遠征

② FISU 主催、世界大学選手権に向けた選手選抜と強化練習 (世代 : 大学生)

[予定されていた取り組み]

- ・ 2021年4月 : 大学選手権に向けた選手選抜
- ・ 2021年5月 : 大学選手権に向けた強化練習

③ IFAF 主催、U-19世界選手権に向けた選手選抜と強化練習 (世代 : 19歳以下)

[予定されていた取り組み]

- ・ 2020年5月 : U-19世界選手権へ向けた選手選抜
- ・ 2020年6月 : U-19世界選手権へ向けた強化練習

10) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第4号に関連する事業として該当する国際試合が行われず、審判員の派遣は実施しなかった。

11) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、競技規則委員会(2020年3月28日開催、一部の競技規則委員はリモートで会議に参加)の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2020年度公式規則を以下のとおり加盟団体に周知した。

- ・ 2020年4月7日、「2020年度・公式規則変更予定報」として変更内容の概要を告知
- ・ 2020年7月8日、「2020年度・公式規則変更内容・決定報」として2019年度公式規則からの変更内容、関係する条文の変更および追記内容を告知
- ・ 2020年8月11日、「2020-2021アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書」を発行

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、マウスシールド(※)の安全性を検証し、使用出来る製品の確認を行った。製作、販売予定のサプライヤーからサンプル品を入手し、形状、取り付け方法についてのコメントをサプライヤーに行った。

(※)マウスシールド:新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から飛沫防止策として、

新たに採用された、口の周りを覆う装具。

1 2) 安全対策全国会議および医・科学研究会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2021年2月20日（土）全国の加盟団体安全対策担当者の参加を得て、オンライン形式で第28回 Jafa 安全対策全国会議を開催した。議事は各団体の1年間の安全対策活動と重大事故の概要報告に続いて、個別の重大事故事例の原因究明と予防策が協議された。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と対応についても議論した。

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2021年2月21日（日）「第23回日本アメリカンフットボール医・科学研究会」をオンライン形式で開催した。講師、関係者を含め210名の参加があった。

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を停止していたチームへ活動再開に向けた各指針を発付した。

- ・2020年6月12日：Jafa アメリカンフットボール活動の再開に向けたガイドライン
- ・2020年7月23日：Jafa 大会再開に向けた留意事項
- ・2020年8月31日：Jafa 大会再開に向けたガイドライン

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、新型コロナウイルス感染拡大防止策として検討されていたフェイスシールドについて、飛沫防止、熱中症の観点より、安全性に関する検証を実施した。検討結果（フェイスシールドの効果、熱中症に対する注意等）を飛沫防止の実験結果の動画を含めて WEB サイトで公開した。

1 3) ドーピング検査

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ振興センターくじ助成プログラム（ドーピング検査）の助成を得て、三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパン・エックスボウル、ライスボウル）においてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が行った。検査の結果陽性例はなかった。

1 4) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、2020年10月26日（月）オンライン形式でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの趣旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓発活動の一環として講習会を開催した。

1 5) 受講者推薦（日本スポーツ協会公認スポーツドクター、及びアスレティックトレーナー養成講座）

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、日本スポーツ協会が主催するスポーツドクター養成講座及びアスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦にあたっては、安全対策委員会、医・科学部会が、受講希望者の中から日本スポーツ協会の受講者選考基準をもとに適格者を選考した。

1 6) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けているが、2020年度においては実現に結びつくような成果は得られなかった。

1 7) CFO 会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、全米大学体育協会（NCAA National Collegiate Athletic Association）の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、以下のとおり関係者が参加した。

- ・（米国）大学フットボール審判協会（CFO, College Football Officiating LLC）が主催するフットボール・コーディネーター・ミーティング（2021年1月26日・27日リモート会議にて開催）に、競技規則委員会の委員長、副委員長および委員1名がそれぞれ自宅よりリモート参加した。

- ・（米国）大学フットボール審判協会（CFO College Football Officiating LLC）が主催予定であったナショナル・レフリー・カンファレンスおよびナショナル・インスタントリプレー・クリニックは、新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となった。

1 8) WEB サイトによる情報発信

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、JAF A 専用の WEB サイトを活用して、国内外の競技情報、JAF A が主催する日本選手権ライスボウルの出場チーム紹介及び試合結果、JAF A の各委員会の活動に関する情報を発信した。

- ・新型コロナウイルス感染症に対応する活動指針として、「JAF A アメリカンフットボール活動再開に向けたガイドライン」「マウスシールドの使用効果」等を発信した。
- ・2020年度競技規則の予定報、決定報、および2020-2021年度の競技規則書の全文を WEB サイトに掲載した。

1 9) 殿堂顕彰

定款第5条第1項第10号に関連する事業として、2020年10月17日、公益財団法人キープ協会のポール・ラッシュ記念館内に設置した日本アメリカンフットボールの殿堂において、2019年度の殿堂顕彰者12名について掲額式を執り行った。

20) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第11号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)、公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)、一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL) 大学スポーツ協会 (UNIVAS)、公益財団法人日本フラグフットボール協会 (JFFO)、NPO 法人日本ワールドゲームズ協会など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟 (IFAF)

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大のため、予定されていた二つの世界選手権のうち、U-19世界選手権については中止し、フラグフットボール世界選手権については2021年に延期したうえでスペインに対して開催権を与えた。ただし、2021年3月時点において、世界各国における新型コロナウイルス感染症の感染状況が完全に改善されたとは言えない状況にあることから、IFAF 理事会においてフラグフットボール世界選手権の開催について再検討することとなった。

WADA 及び IOC との協議を経て、IFAF のアンチ・ドーピング規則の最終案がまとまった。

二つの世界選手権の開催が中止となったことから、2020年 IFAF 総会は2020年12月5日にオンラインで開催された。なお、2020年の総会で IFAF 理事会の役員改選が行われる予定であったが、役員選挙をオンラインで実施することが非常に困難であることから、全役員の任期は次回の IFAF 総会まで延長されることとなった。

(2) 公益財団法人日本スポーツ協会 (JSPO)

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導員資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

スポーツドクター、ならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者については、公募のうえ選出して推薦した。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症、感染拡大の影響から養成講座が開催されなかった為、来年度も同じ候補者を推薦することを予定し、既にアスレティックトレーナーについては、今年度と同じ候補者を令和3年度募集に推薦をした。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

日本オリンピック委員会総務委員会に国吉会長が、選手強化本部会には清水専務理事がそれぞれ委員として出席した。日本オリンピック委員会が主催する数多くのプロジェクトならびに会合

には、業務執行理事が中心となって対応した。また、日本オリンピック委員会からのアンケート調査に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

スポーツ振興センターの助成金事業に応募し、くじ助成事業として「ドーピング検査事業」、「ガバナンス強化事業」を行った。

助成金事業として申請していた「JAF A フットボールアカデミー事業」「タレント発掘事業」「世界大学選手権遠征事業」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で事業が中止された。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

三大ボウルゲーム (甲子園ボウル、ジャパン・エックスボウル、ライスボウル) でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。

(6) スポーツ庁

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策において、日々刻々と状況が変わる中、様々な情報提供を受け、協会活動の意思決定の情報とするとともに、傘下の団体とも情報共有を図った。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

エックス・リーグ (社会人アメリカンフットボール協会) が加盟する日本トップリーグ連携機構の評議員会に国吉会長が、理事会に深堀理事がそれぞれ評議員ならびに理事として参加し、日本トップリーグ連携機構メンバーのエックス・リーグとともに NF (統括団体) の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

(8) 大学スポーツ協会 (UNIVAS)

2019年、日本学生協会を主体のもと、競技団体として学生スポーツ協会に加盟した。今年度は競技団体として、UNIVAS CUP への参加をし、医療従事者支援制度を活用した。協会サイトでの動画配信事業など、様々な取り組みにより競技の普及活動に協力いただいた。また、新型コロナウイルス感染症対策として「UNIVAS 大学スポーツ活動再開ガイドライン」などの提供を頂き、競技運営の参考とした。

(9) 公益財団法人日本フラグフットボール協会 (JFFO)

フラグフットボールの国内での普及事業を進めてきている日本フラグフットボール協会と連携し、2028年のロス五輪の追加種目をにらみ、競技力向上のため協働でプロジェクトを立ち上げた。国内の競技大会においては両協会での共催を始める。

以上

II 内部統制体制の整備についての決定および運用状況の概要

1. 現状整備されている内部統制関連規程

- 1) 理事会運営規程
- 2) 旅費規程
- 3) 役員等の費用弁償規程
- 4) 役員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- 5) 謝金規程
- 6) 倫理懲罰規程
- 7) 内部通報規程
- 8) 殿堂顕彰規程
- 9) 寄附金等取扱規程
- 10) 会計規程
- 11) アンチ・ドーピング規程
- 12) 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針
- 13) 個人情報及び個人情報の保護に関する基本規程
- 14) 管理運営基金取扱規程
- 15) 日本代表チーム編成規程
- 16) 加盟団体に関する規程
- 17) 保有株式取扱規程
- 18) 印章管理規程
- 19) 理事等の職務権限規程
- 20) 理事会提出役員選任議案作成に関する基準
- 21) 就業規則
- 22) 委員会規程
- 23) 法人カード利用規程

2. 2020年度、内部統制関連規程の改定等

- 1) 定款（一部改定）
2020年度第1回社員総会（2020年6月14日）
- 2) 理事会提出役員選任議案作成に関する基準（一部改訂）
2020年度第2回理事会（2020年6月14日）
- 3) 加盟団体に関する規程（一部改定）
2020年度第3回理事会（2020年8月4日）
- 4) ガバナンス強化基本方針・実施5ヶ年計画（策定・公表）
2020年度第4回理事会（2020年11月15日）
- 5) ガバナンスコード自己評価説明書（公表）
2020年度第6回理事会（2021年3月14日）

3. 内部通報関連

2020年度通報 2件

2020年度解決 0件

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。

以上